

助成者	坂本 貴則	活動期間	2012年4月～2014年3月
所属機関	特非)日本国際ボランティアセンター (JVC)	職 名	カンボジア事務所 現地代表代行

小学校教員による環境教育実施のための教材作成事業と環境教育活動

【活動場所】カンボジア シェリムアップから東へ60キロ離れたチークラエン郡の6つの小学校

【事業目的】当地で暮らす住民はほとんどが自給目的の小規模農家であり、コメの収穫量が低く暮らしは不安定である。近年、化学肥料や農薬の利用により収穫の改善をおこなう農民が増えているが、健康被害が多発し河川や池などの水質汚染が心配されている。本事業は、環境への負荷が少ない生態系に配慮した農業を促進し、個々の農家の生計を改善することを目的とする。この目的を達成するために、生態系に配慮した農業の研修、植林活動、環境教育活動などを、地域住民や小学校の教員と協力して実施する。



小学校での苗木づくりの様子

【活動内容】

- ①環境教育ファシリテーター養成講座：7日間開催し教員・住民含め39名参加。
- ②小学生対象環境教育：座学だけでなく校内清掃、苗木づくり（3100本）、堆肥づくり、学校菜園などの実践学習を実施。
- ③植林キャンペーン：2回実施860名が参加し2000本の苗木を植樹。他にも植林祭を含め植林を実施し計約8000本植樹。
- ④環境教育イベント：小学生による環境劇（2回）、環境ビデオ上映会（2回）
- ⑤環境教育教材作成：小学校4年生用の教材として絵を拡大カラー印刷した教材を120点作成し、ラミネート加工して利用。植物図鑑作成のための調査実施。

【活動成果】

ファシリテーター養成講座を通じて、現地の植物の特性や有効活用に関する知識が深まり、開発と環境保護を両立する可能性を高めた。環境教育は実践ベースのものであるということも、理解が深まった。植樹は6割が活着し、森林管理組合との連携が可能となり森林保全意識が高まった。環境教育イベントは、多くの小学生や地域住民に対して環境教育を受ける機会を提供することができた。また小学校と地域住民の距離が縮まり、教員と保護者との関係性を強めた。環境教育教材作成および教材の利用を通じて、教員の授業の質が高まった。



作成した教材を用いた授業の様子